平成28年度

昭和小学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

①「児童の興味・関心や意欲を喚起し，わかる・できる授業の工夫・実践」

②「児童の聞く力・表現する力の育成」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 3学年主任 荒井　佳代	**管理職**　校長：町口　美千代　教頭：松永　健治 **委員**　教務主任・6学年推進員：出口　真澄　5学年主任：原田　三知子　4学年主任：板倉　弘美 2学年推進員：上田　サオ里　1学年主任：多富　美智

校長

町口　美千代　　印

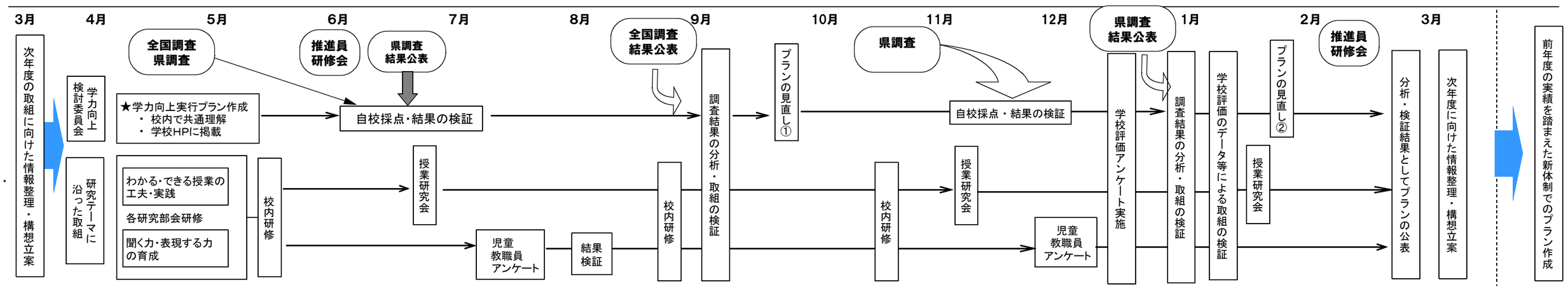
（１）基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況		具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	ドリル学習やスキル学習に取り組む習慣がつき，基本的な漢字の読み書きや四則計算が定着してきている。	宿題や学習課題に確実に取り組み，基礎的・基本的な知識・技能が習得できる。	高学年は全国調査・ステップアップテストで平均正答率を県平均以上にする。 低学年は国語・算数の単元テストの目標達成率（平均点が80点以上の児童の割合）を80%以上にする。	左記の取り組みを継続して進めるとともに，確認テストや補充学習のための時間確保に努める。	①全ての教員が，板書を工夫し，ノート指導を定期的に行うことができた。 ②児童の実態に合わせた内容の確認テストを定期的に行っていると自己評価した教員は，96%だった。	・高学年は，全国学力調査・ステップアップテストのほとんどの設問で正答率が県平均を上回ることができた。 ・低学年は，国語・算数の単元テストの目標達成率が90%で，成果指標を達成することができた。
課題	学力に二極化傾向がみられ，各学年に学力の低い児童が数名いる。下位層では，学習に取り組む日頃の態度なども，基礎学力の定着に関係していると思われる。苦手意識が基礎学力に大きく反映していて，学習意欲の向上が課題である。	**具体的方策（教員の取組）** ①ICT機器等を活用しながら分かりやすい板書を工夫し，問題解決の流れにそったノートがとれるような指導を行う。 ②ドリル学習やスキル学習に継続して取り組む時間を確保し，特に間違いやすい内容など，実態に合わせて繰り返し確認テストを行う。	**取組指標** ①「板書を工夫し，ノート指導を定期的に行っている」（自己評価）の割合を90%以上にする。 ②「児童の実態に合わせた内容の確認テストを定期的に行っている」（自己評価）の割合を90%以上にする。		**評価** A	**次年度における改善事項** ・教員の意識が昨年度よりもさらに向上し，児童の学力向上につなげることができた。次年度も引き続き取り組みを進める。 ・高学年のステップアップテストにおいて正答率が県平均を下回った教科・領域については，学習ガイドなどをより活用し，様々な問題を解く機会を多く設ける。 ・低学年は，成果指標を達成することはできたが，全体的に国語の目標達成率が算数よりも低かった。国語に対する取り組みについて，見直しが必要である。	

（２）知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況		具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	スキル学習（話す・聞く）を生かしながら，与えられた表現の場で，積極的に自分の考えを表現したり伝え合おうとしたりする態度がよく見られるようになった。	話し手の言いたいことを考えながら聞き，目的や相手に応じて進んで自分の考えを表現することができる。	国語科における「読む力」・算数科における「数学的思考力」を評価する問題の正答率の到達目標を，各学年の発達段階に応じて設定し，達成できた児童を70%以上にする。	授業の組み立てを工夫し，ペア学習やグループ学習の時間を確保する。また，自分の考えを書く活動を短時間でも継続して取り入れ，思考力・判断力・表現力を高める。	①話し合いの場でめあてを意識できるように指導をしていると自己評価した教員は82%で，目標に届かなかった。 ②書く活動を授業の中に積極的に取り入れたと自己評価した教員は92%で，目標を達成できた。	国語科における「読む力」・算数科における「数学的思考力」を評価する問題の正答率の到達目標を達成できた児童は81%で，成果指標を達成することができた。
課題	決められた手順のない場では，スキル学習（話す・聞く）の成果が十分に発揮されていない。理由や解決方法などの自分の考えを，自ら進んで表現することに対し，苦手意識を持っている児童が多い傾向が見られる。	**具体的方策（教員の取組）** ①話し合いの場やコミュニケーションを図る場で，発達段階に応じためあてを意識できるように指導する。また，ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ，コミュニケーション力の育成を図る。 ②学習活動の中に書く活動を取り入れ，自分の考えを深め，まとめる機会を積極的に設ける。	**取組指標** ①「めあてをもって話し合いやコミュニケーションを図ることができるように指導をしている」（自己評価）の割合を90%以上にする。 ②「書く活動を取り入れ，自分の考えを深め，まとめる機会を積極的に設けている」（自己評価）の割合を85%以上にする。		**評価** B	**次年度における改善事項** ・書く活動については，授業中に短時間でも継続的に取り入れ，思考力・表現力の育成への意識が高まった。 ・めあてを持った話し合い活動については，時間の確保に加え，より質の高いペア学習等への取り組み方が課題である。 ・全体としては成果指標を達成することができたが，算数科における「数学的思考力」を評価する問題の正答率が，高学年で低かった。算数科に特化した具体的方策が必要である。	

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況		具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	ドリル学習やスキル学習に取り組む習慣は定着している。好んで本を読む児童の割合も増加している。	進んで学習に取り組み，学ぶ楽しさやわかる・できる喜びを感じることができる。	自主的に学習に取り組んだ児童の割合を80%以上にする。（自己評価カード）	定期的に家庭学習について指導・点検する機会を設け，その際に家庭学習の手引きを繰り返し活用する。	①③全ての教員が目標を達成することができた。 ②家庭学習への取り組み方についての指導ができたと自己評価した教員は73%と，目標に届かなかった。	・83%の児童が，学校や家庭で進んで学習に取り組むことができたと自己評価している。
課題	決められた課題には取り組むが，家庭学習の手引きが生かされておらず，家庭での学習・読書習慣が十分に定着していない。	**具体的方策（教員の取組）** ①授業に児童の主体的な体験や活動を積極的に取り入れる。 ②家庭学習の手引きの活用のしかたを繰り返し指導し，家庭学習に目標を持って取り組めるようにする。 ③学級文庫の充実と朝の読書タイムの時間確保に努め，家庭での読書習慣の定着につなげる。	**取組指標** ①「授業に児童の主体的な体験や活動を積極的に取り入れている」（自己評価）の割合を85%以上にする。 ②「家庭学習の手引きを活用して，家庭学習の取り組み方について指導している」（自己評価）の割合を90%以上にする。 ③「読書指導を積極的にしている」（自己評価）の割合を90%以上にする。		**評価** B	**次年度における改善事項** ・本年度，朝の読書活動の時間確保や図書室の積極的な活用への取り組みが大変効果的で，目標を十分達成できた。次年度も引き続き取り組み，さらなる読書習慣の定着を図る。 ・家庭学習の手引きの活用については，家庭での取り組み方への目配りや指導の難しさがあり，目標達成が困難であった。次年度に向けて，家庭学習の手引きの有効な活用方法を，校内研修など教員全体で模索していく必要がある。	

平成28年度　学力向上ロードマップ